

◆28 番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。自由民主党岡山市議団の森田卓司でございます。

皆さんが私に何を期待しているのかというのは重々承知をしながら質問に入らせていただきますが、要らんことも少し言わせていただこうと思っております。

先日になるんですけど、県道落合・建部線が今崩落していて、多くの皆さんに迷惑をかけているわけでありますが、もうその絶壁の上にある集落というか、私も生まれたところのあたりなんですけど、その町内会と言うのがいいんかどうかわかりませんが、町内会で敬老会をするから来てくれということで昨年も行かせていただいたんですけど、もう本当に総参加者 10 名、私を含めて 10 名ぐらいです。高齢化率でいえば、75 か 80 ぐらいです。どんな話になるのかなと思っていつも行くんですけど、とても皆さん生き生きとされておりまして、これからいろんなことをやっていかにやいけんというふうなことを言われておりました。私自身、そういう地域にどういうことをするのが必要なのかということや常々考えているわけでありまして、なかなか妙案も浮かびませんし、どうしたらいいのかなというふうなことを考えているわけなんですけど、敬老会等でそういう皆さんが明るい笑顔でいろんなお話をされている姿を見ると、本当に頑張っていて議員活動やいろんなことをやっていかなくてもいけないんだなと思ったところでございます。

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まず、1、連携中枢都市圏の取り組みについての項で、(1) 公共施設の相互利用の仕組み構築事業についてお伺いたします。

8 市 5 町が連携して、行政サービスの向上や地域経済の活性化を図る連携中枢都市圏の形成に向け、大森市長が 8 月 9 日に圏域の中核を担う連携中枢都市宣言をし、岡山市が連携市町ごとに連携して事務を処理する基本的な方針及び役割分担を定める連携協約の締結に関する協議についての議案が 9 月議会に提出されています。

さて、岡山市は、東山斎場の再整備に伴う人体火葬炉の減少、西大寺斎場の老朽化等及び合併による市域の拡大、災害時のリスク分散の観点などから、新斎場の建設に向け粛々と進んでいると認識しております。

岡山市の斎場の位置的なバランスから考えると、新斎場は岡山市の北西部に配置することが適切であると私自身も思っております。今議論されている連携中枢都市圏の事務事業名に、公共施設の相互利用の仕組み構築事業があります。先ほど申し上げましたように、合併による市域の拡大等で、周辺地域では多くの場合、他の自治体の斎場を利用しているのが現状です。

そこで提案いたします。

今回の連携中枢都市圏の協議事項には、斎場の相互利用は入っていないとお聞きしていますが、周辺地域の現状と利便性等を考えると、斎場の相互利用について早急に協議に入

るべきだと思いますが、いかがでしょうか。

次に、2、地域おこし協力隊について伺います。

「市民のひろば おかやま」9月号の表紙で、御津紙工の河原邸をバックに、岡山市で初めて導入した地域おこし協力隊4人が「～御津・建部地域に新たな風を～「岡山市地域おこし協力隊」が活躍しています」と大きく取り上げられています。全国各地で、また岡山県内の多くの自治体で地域おこし協力隊を導入して活動されています。導入による成功例や、思ったような結果が出ていないとの報道もされています。

そこでお尋ねいたします。

(1) 岡山市として、地域おこし協力隊に対して理想とする活動の考え方をお示してください。

(2) 岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、平成31年までに10人を導入する目標値が示されています。隊員数の目標値の変更を含め、今後の予定をお示してください。

(3) 現在、先行的に御津・建部地域へ導入している隊員の活動状況をお示ください。また、活動についての御所見があればお示ください。

3、県道宮地・鹿瀬線について。

この項に関しては、平成27年2月定例岡山市議会の私の質問に対する答弁は、多数の利権者が共有している土地の取得は、権利者やその相続者の所在が不明の場合は取得が難しいとの答弁でありました。そして、同年9月定例岡山市議会で、同年4月に地方自治法が改正され、先ほど紹介したような土地が一定の手続きを経て法人化された町内会などの名義で登記が可能になったとの報告を受けました。

そこでお尋ねいたします。

(1) 現在までの当該用地の状況と、今後の道路改良のスケジュールについてお示ください。

(2) 各局にまたがる制度は情報の共有が重要だと思うが、御所見をお示ください。

4、前期中期計画より。

まず、(1) 住民自治組織育成事業について伺います。

町内会の活動は、地域コミュニティの維持や町内会から市への要望、市から町内会への依頼等、幅広い分野に及んでいます。そのため、現役世代の方々は町内会長になかなかなれないということもあり、地域によっては町内会長のなり手がいないのが現状ではないかと感じております。

また、周辺地域と中心市街地では、地域の現状も環境も大きな違いがあると思います。昨日柳井議員も、町内会の重要性というか、大変さを言われておられました。

そこでお尋ねいたします。

周辺地域と中心市街地では、町内会活動等において、共通の課題もあると思うが、全く違う場合もあります。それぞれの地域に応じた対応と対策が必要だと思いますが、いかがでしょうか。

また、具体的な取り組みがあればお示してください。

最後に、(2) 市立学校・園の適正規模化事業について、教育長に御挨拶がわりに質問させていただきます。(笑声) よろしく願いいたします。

今さらではありますが、少子化の影響は政令市岡山の周辺地域でも進んでいます。子ども会の活動ができなくなったり、地域の行事への参加人数も減少しています。しかしながら、地域によっては、3世代交流会や子どもたちを中心に、田舎のよさを知りながら育てることで郷土愛を育む活動をすることで、夏祭り等の行事では多くの子どもたちでにぎわい、活気のある地域を維持されているところもあります。

岡山市立小学校についても、小規模校を含め特色のある教育で児童・生徒が勉強やスポーツ等に力いっぱい取り組んでいることは、非常に心強く感じるところです。小規模校等の考え方については、岡山市議会でもいつも議論され、今日に至っています。

そこで、新教育長に率直なお考えをお聞きいたします。

①過小規模校に対する認識と統廃合に対する考え方をお示してください。

②子どもたちは地域の宝であり、学校は地域の拠点施設であります。そのような考え方に対しての御所見をお示してください。

③たたき台とはいえ、この時期に前期中期計画に適正規模化事業を加えたことには違和感を持ちますが、いかがでしょうか。

④周辺地域では、保育園についても先ほどの①から③の質問と同様に考えますが、御所見をお示してください。

以上で1回目の質問を終わります。御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎大森雅夫市長

では、お答えしたいと思います。

森田議員が最初におっしゃられたその住民の笑顔というのは、本当にとつものだと思います。特に中山間地等々の方のことを考えれば、本当に何をやっていかなきゃいのかということのを真剣に考えていきたいと思っております。

そういうこともあって、私はちょっと地域おこし協力隊の話をさせていただきます。

理想とする活動の考え方ではありますが、実は、森田議員にお話ししたことがあるかもしれませんけれども、昔テレビでも取り上げられた、いわゆる元祖地域おこし協力隊と言われる坂本さんという方がおられまして、福岡の方なんですけども、長崎に住んで、お年寄りたちのさまざまな生活支援を行っている。

具体的に言うと、朝、各家庭を回ると、お年寄りが必ず旗を出している。それで、何も旗が出てなかったら危ないというようなことで、そういうチェックをされている。そういうことをやりながら、それぞれの家庭のお年寄りたちと本当に仲よくなる。お年寄りというのは、どうしてもひとり住まいなんかになると、ひきこもりがちになってしまいます。そういう方と仲よくやって、そして集会所、私も集会所で話をいろいろと伺ったんですけ

ども、そこへ来ていただいて、さまざまなイベントを行っている。それがおばあさん、おじいさんたちの笑顔につながっていくと。もちろん産品開発なんかもやっているんですけども、私はこれが地域おこし隊の姿の一つの典型例なのかなと思っているところでありませぬ。

しかしながら、特に近年、平成26年に総務省もこの考え方をもう少し拡大してもいいんじゃないかみたいところで、対象となる活動事例を幾つか挙げています。1つは、商店街の空洞化にどう対応するかとか、そういったものもありますし、例えば教育交流をどうするのかというのもあるとあって、いわゆる典型的な中山間地域対策というものから随分大きくというか、役割が拡大してきていると感じています。

そういう面では、これを利用してできるものというのは、私としては幾つかあるんじゃないかなと思っております。だから、理想例というよりも、この理想というのは多分地域によって変わるから、地域の方が考えていただいて、こんなものがないんじゃないかというようなものを提案していただいて、形にしていればなと思っております。

したがって、今後は御津・建部地域以外の地域でも御意向をお伺いし、一定の基準というのが必要だろうと思っておりますので、そういった基準を考えながら導入を図っていきたいと考えております。

私からは以上です。

◎河野広幸市民生活局長

1番の連携中枢都市圏の取り組みについての項、公共施設の相互利用の仕組み構築事業についてで、斎場の相互利用について早急に協議するべきではないかとお尋ねにお答えいたします。

斎場の相互利用につきましては、連携中枢都市圏の枠組みも含めて、関連自治体と協議してまいりたいと考えております。

以上です。

◎鉄永正紀政策局長

地域おこし協力隊についての項で、市長答弁以外にお答えいたします。

岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標値についてお答えしたいと思います。

現在、地域おこし協力隊について、各区役所と制度概要について情報共有を行ったところであり、地域おこし協力隊の導入を検討する地域に対して、隊員の円滑な受け入れのための留意点などをまとめているところです。

今後の予定としましては、制度や留意点を地域の住民の方々へ周知し、地域のニーズを把握しながら導入を図ってまいりたいと考えております。

岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略でお示ししている地域おこし協力隊導入数の目標値につきましては、このような状況を踏まえ、まずは達成状況の推移を注視してまいり

たいと考えております。

以上です。

◎福山潔北区長

御津・建部地域の地域おこし協力隊の現在の活動状況の御質問でございます。

御津地区2名，建部地区2名で，主な活動としましては，御津の河原邸やたけべ八幡温泉などの地域資源を生かした交流事業の推進や，ブドウ，豆腐など地域農産加工品の生産販売の促進などがございます。

ホームページ作成などさまざまなPR活動や地域の住民でつくる各グループと連携した活動を通じまして，地域の魅力発信や新たな地域資源の掘り起こしに取り組んでおります。地域に溶け込み，地域活性化の機運が高まり，その効果が期待されているところでございます。

以上です。

◎大杉誠都市整備局長

県道宮地・鹿瀬線についての項，順次お答えいたします。

まず，事業のスケジュールですが，当該用地については，所有権を地元町内会に移転登記することについて3カ月間公告を行ったところ，異議がなかったため，そのことを地元町内会にお伝えしたところですが，今後は，地元町内会が所有権移転登記の手続を行った後，本年11月ごろに岡山市が地元町内会から用地を取得し，平成29年1月ごろから工事に着手する予定です。

次に，情報共有についてですが，この案件は，平成26年に創設された認可地縁団体が所有する不動産に係る登記の特例という制度を活用したのですが，担当者が粘り強く情報収集に努め，都市整備局，市民協働局，区役所が情報を共有し，連携しながら取り組んだ結果実現できたものと考えており，事業を円滑に進める上で，情報共有の重要性について再認識したところですが，

以上です。

◎奥野淳子市民協働局長

4，前期中期計画よりの項，住民自治組織育成事業について，町内会活動等の課題について，地域に応じた対応と対策が必要ではないか，具体的な取り組みがあれば示してほしいとの御質問にお答えします。

町内会活動等の全市的課題として，町内会役員の高齢化や後継者不足等については認識していますが，さらに詳細な町内会活動等の実態を把握する目的で，7月に全単位町内会長を対象にアンケートを実施しました。80%もの町内会から回答があり，現在その集計作業を行っているところです。この結果を受けて，課題を分析し，今後の取り組みに生かし

ていきたいと考えております。

以上です。

◎田中克彦岡山っ子育成局長

同じ項、市立学校・園の適正規模化事業等についての中、周辺地域の保育園の統廃合についての所見をというお尋ねでございます。

議員御指摘のとおり、子どもは地域の宝であると考えます。そうした子どもが社会性を培い、心豊かに成長するためには、多くの友達とかかわることが大切であるとされており、保育園においても一定の規模の集団を維持することが必要であると考えております。

また、保育園では学区制をとっておらず、地域の拠点施設とまでは言いにくい面もありますが、地域の実情も踏まえ、地元関係者や保護者の方々に丁寧に説明し情報を共有するとともに、理解を得ながら施設のあり方について検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎菅野和良教育長

同じ項、市立学校・園の適正規模化事業について順次お答えいたします。

まず、過小規模校に対する認識、統廃合に対する考え方でございますが、児童・生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えております。

とはいえ、学校は各地域のコミュニティーと深いかかわりを有しておりますので、拙速に適正規模化を進めるということではなく、子どものことを一番に考えるのは当然ではありますが、地域とともにある学校のあり方を十分考慮し、慎重に進めてまいりたいと考えております。

次に、子どもは地域の宝、学校は地域の拠点施設ということについての所見ですが、地域の皆様が登下校時の見守りや声かけなど、学校を拠点として、子どもたちの健やかな成長のためさまざまな取り組みをされていることはよく認識しております。本当に感謝いたしております。

最後に、適正規模化事業を前期中期計画に加えたことにつきましては、自民党の岡崎議員にお答えしたとおりでございます。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

御答弁ありがとうございました。

まず、公共施設相互利用の斎場の件ですが、局長、ぜひ早急に進めて行って……、相手のあることですので、相手との協議が必要だと思しますので、とりあえず机に上げていただくようよろしくお願いします。

それで、平成の大合併で、こういう4町が岡山市と合併したわけですが、その平成の大合併をするまでの間に、本当にいろんな枠組みが示されました。その町ごとにいろんな、こういう枠組みがあるんじゃないか、こういう枠組みもあるんじゃないのかというような議論をその町でしたわけでございます。というのは、やっぱり周辺地域というか、今ではその自治体とのかかわりが深いから、そういう合併をしたらどうかというようなことを議論してきたところでございます。ですから、私自身も、周辺地域に住んでいる皆さんも、やっぱりこの連携中枢都市圏ということに対しては大いに期待しているところであります。やっぱりいろんな議論をしながら、そういうことをやれるというか、これは合併じゃないですけど、連携ができて、今までやってきたことがこれからも引き続いてやれるとか、新しいことができるかということ、またいろんな展開が出てくるのではないかと考えております。

そういう意味で、たまたま斎場の件で今回質問させていただいたんですけど、住民サービスの向上に資するような事業はこれからも提案していくことができるのかどうか、それを御答弁ください。

◎鉄永正紀政策局長

今御指摘のように、連携中枢都市圏の関係市町との間で、今議会にもお諮りしておりますように、連携協約の締結というのを目指しておりますが、それにぶら下がっていく具体的な事務事業につきましても、今年度中にビジョンを策定したいと思っております。その協議の中で、現時点では四十幾つという事務事業を具体的に協議しておりますが、そういった今後の協議の中で出てまいりました事業につきましては対応してまいりたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

ありがとうございます。

それでは次に、地域おこし協力隊についてです。

市長、ありがとうございます。商店街とか学校とか、いろんなところでもやっているところがある、そういうところもできるのではないかなというような話でございましたが、今は御津、建部にとりあえず導入されています。

先ほどの答弁で、ほかの地域にも導入する予定があるとのことでしたが、地域としてはどこを想定されているのか、御所見をお伺いいたします。

◎鉄永正紀政策局長

御津・建部地域以外ということでございますが、現在検討を進めているところであります。具体的な導入地域としましては、中山間とか周辺地域などを中心にしながら、まずは先ほど申しましたように周知を行って、地域の御意向とか活動のニーズというのを把握した上で、引き続き検討しまして、今後導入を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

本当に御津や建部でも、この地域おこし協力隊を受け入れる上で、地域の方、いろんな議論をしながら、非常に苦労したところですよ。だから、今言われたようなことをしっかり調査しながら、どこにでも行ってくれというのではいけないと思いますので、どういうふうな制度でどういうふうになっとんかということをしかりと周知しながらやっていただきたいと思います。

ところで、この地域おこし協力隊でございますが、職員名簿によると、地域おこし協力隊は嘱託員となっております。嘱託員といってもいろいろあると思うんですが、身分というのはどのような形になっているのでしょうか。

◎福山潔北区長

今の御質問の協力隊員の身分でございますが、議員のおっしゃるとおり、市の嘱託員ということで、基本的には市の嘱託員の活動と同じでございますが、職務の性質もございまずので、週35時間ということで、土日も含めて行動しておるということでございます。

◆28番（森田卓司議員）

ありがとうございます。

この地域おこし協力隊ですけど、やっぱり先ほど前段で言ったように、成功した例とか失敗した例とか、いろんなお話を聞きます。所によっては、ある議員さんが、もうそんなものはおらんほうがええんじゃみたいなことを言われるところ、そういうお話も聞くことがあるわけですが、建部、御津においては今のところそういうことはないと思っております。

非常に温度差があるものの、みんな熱い思いを持っておられます。地域の方も、何とかしてこの地域おこし協力隊を成功させにやいけんと。成功というのは、これ僕自身が思うことなんですけれど、3年間、この嘱託員として働いた後、その地域に住んでもらえる、それで自分でなりわいを見つけて、市長さっき言われたように、いろんなことをしながら生活していける、これが私自身は成功だと思って、地域の方ともそういうふうにご話をしています。まあまあよかったかというのは、3年間おって、3年間住んだけえ、ほんじゃ帰りますわというのがまあまあよかったんかなと。失敗というのは、やっぱり3年もおらず、

例えば1カ月、2カ月、1年でもいいけど、そういう中で帰るのが失敗した例じゃないかと思っております。

そういう中で、やっぱり地域の方は、この協力隊の人を何とかせんといけんじゃろう、森田君、今のままほったんじゃ、3年後にここで生活せえやこう言えれん、できんのじゃねえんかというふうな話もお聞きいたします。

それで、協力隊の方も、自分らで何とかしようという思いは熱く持っておられます。先ほど活動のことを北区長が言われましたけれど、そういう必死で、3年後に建部、御津で住みたいと、住んでいかにいけんというふうな熱い思いを持っていると思うんですけど、地域の方の熱い思いと協力隊の方の熱い思いがちつとなればいいんですけど、すれ違っていく場合が出てくるのではないかと思うんです。そこを何とかがちつとなるようにするのが行政の役割と言ったらおかしいんですけど、行政がどこまでタッチするのがいいかわからないんですけど、地域の方、協力隊、それから行政がしっかりとその話をする機会を持たなくてはいけないと思うんですが、そういうことに関してはいかがでしょうか。

◎大森雅夫市長

地域おこし協力隊として3年間入って、その後も定着されるのは大体5割、6割ぐらいということですから、逆に言うと、半分弱の方は帰られている。帰られているのが全部失敗かということ、そうでもないところもあるかわかりませんが、そういう失敗事例があることは事実だろうと思います。

先ほど私、長崎の坂本さんの話をしましたが、やっぱり相当御苦労があったようです。最初に、全く知らないところから入ってきて、そのおじいさん、おばあさんたちと仲よくなるまでの道筋はなかなか大変だったというようなことも言われていました。だから、協力隊と地元の方両方の、何ていいますか、息がどう合っていくのかというのが重要なんだろうと思います。森田議員は、そこの橋渡し役をどうすればいいかということだろうと思いますが、どういう環境整備があるのかというのはちょっとはかりにくいところがあるんですけども、そこは相談しながら、行政として何か本当にできることがあるか、また個別に十分議論させていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

◆28番（森田卓司議員）

ありがとうございます。

続いて、県道宮地・鹿瀬線について、都市整備局長、本当に御尽力ありがとうございました。地域の方も喜んで、長年の願いが実現するという事で喜んでおります。

それで、市民協働局になるんですかね、この制度を活用したのは建部のここが最初だと思うんですけど、ほかに申し込みとかそういうものがあるのでしょうか。

◎奥野淳子市民協働局長

今までに数件御相談はありましたが、適用要件に該当して具体的に進んだ例というのは今回が初めてで、1件でございます。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

やっぱりこういういい制度と言ったらおかしいですけど、今まで苦労していたことができるような制度なので、告知というのをしっかりとしないといけないのですが、そういう告知はどのような形でやられているか教えてください。

◎奥野淳子市民協働局長

特例ができたこの制度については、どういう形で周知したかということはちょっと今把握できておりませんが、ホームページ等にも載せておるところです。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

しっかりと告知したほうがいいんじゃないかなと思います。

それから、町内会のことでありますが、アンケートの回答が80%ということで、1,800ぐらい町内会があるんですかね、1,800ぐらいあって80%といたらすごい回収率だと思います。大体いろんなアンケート調査をしても、40%とか50%ぐらいの回答率、返信率だと委員会とかでも報告されていますが、この80%という回答があるということは、それだけ、先ほども紹介しましたし、柳井議員も言われていましたが、町内会の活動に対して、またいろんな部分に対して御苦労が、町内会長自身も御苦労されているんじゃないかと思っております。そしてまた、そういうアンケートの中でいろんな提案もされているのではないかと思います。だから、その提案をしっかりと反映させるべく、早急にこのアンケートの結果をまとめるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

ということで、教育長、済いません、再質問ができませんでしたが、これを私の最後の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

◎奥野淳子市民協働局長

今回のアンケートでは、町内会の活動、運営についての具体、それから町内会の運営で問題だと感じていることとか、その運営改善、課題解決に重要だと考えることなどの設問もしております。これを小学校・中学校区単位でまとめていきたいと考えておりますので、議員から御指摘があったような地域ごとの課題も見えてくるのではないかと考えております。できるだけ早くまとめて、今後の取り組みに生かしていきたいと考えております。

以上です。